

研究テーマ探し

石井 颯

富山県立大学 情報システム工学科

2024 年 11 月 11 日

複製・競合を考慮した動径基底関数ネットワーク（RBFN）の機械学習への適用

本研究の目的

複製・競合動径基底関数ネットワークを機械学習に適用することで、従来のアルゴリズムの場合と比較したときの処理速度の向上を図る。

新規性

従来では土砂災害発生危険性予測などに使われてる。また、RBFN はいくつかの時系列予測を少ないデータで比較的高精度で行える。天気、商品需要、経済、株価、医療のデータ予測など従来ある予測の精度を高めて行えるかもしれない。

目的

に

歴史や文化の理解: 土器は、古代の生活様式、食文化、宗教儀式、交易関係などを理解するための重要な手がかり。土器の形状、装飾、製法の変遷を調べることで、当時の人々の暮らしや社会の変化を探ることができる。年代測定: 土器は時代や地域によって特有のスタイルや製法があるため、考古学における年代測定にも役立つ。土器の年代を特定することで、遺跡の層序や他の発見物との関連性を明らかにすることが可能。

いろいろな場所で発掘された土器の形状や材料を分析し、昔の人々の暮らしや年代の予測ができる。また、土器の形状や製法が一致していればそれらの情報から移住の様子や暮らしの変化なども予測できる。

目的

研究で活用していた IOT 製品を利用して何か新しいことをしたい。ストレスを抑えるストレスコーピングについての研究であったが、逆にどんな状況や声掛けでストレスが上がるがのかなどを調べて、ホラー系の映画やゲームに役立つような情報が得られたら面白そうだと思う。